

2020年度 施策マネジメントシート【2019年度実績評価】

作成: 2020年 6月 12日

施策番号 4-1-2	施策名 消防・救急の充実	基本目標 自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり 政策名 安全・安心に暮らせる生活環境づくり	
	主管課 芽室消防署	課長名 松久哲也	内線 520
	施策関係課		

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果
災害の拡大防止と、緊急時の迅速かつ的確な対応に向けた備えをすすめます。		町民、消防・救急体制	・予防意識の醸成と、災害・緊急時の迅速かつ的確な支援 ・消防・救急体制の充実を図る				町民の生命・財産を守る
成果指標		説明	単位	策定時(2017実績)	2019年度実績	2020年度(予想)	2022年度目標
① 住宅用火災警報器の設置率	消防署調べ	%	77.1	68.0	75.0	90.0	
② 火災出動件数	消防署調べ	件	8	8	10	10	
③ 防火講習会・普通救命講習会参加者数	消防署調べ	人	2,603	1,200	2,200	2,200	
④							
成果指標 設定の考え方	①1年7%上昇を目指として算出したもの。 ②近年の火災出動の動向を基に目標値を算出したもの。 ③自主防災組織数の増加による参加者増を見込んで算出したもの。						

2. 施策の事業費

	2018年度決算	2019年度決算
施策事業費 (千円)	376,801	419,210
人工数(業務量)		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①2019年度の成果評価	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した <input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	①2018年度実績62%から6%上昇しているが、調査方法の変更により70%代が芽室の実態に近い数値と考える。 ②予防啓発活動の推進により、目標値をクリアしたと考える。 ③防火講習会参加者減の理由として、自主防災組織等の取組が実動訓練へシフトしているためと考える。
②2022年度の目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠 (理由)	①各種イベント、講習会、広報媒体を利用した警報器認知度向上に努める。 ②各種イベント会場における広報活動を強化し、目標値達成を継続する。 ③講習会参加者増加を目指すため、新たに設立された自主防災組織に講習会開催の働きかけを強化する。
(2) 施策の成果評価に対する2019年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	芽室消防署活動事業 芽室消防団運営事業 芽室消防施設整備事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	「芽室消防署活動事業」→芽室町の住宅用火災警報器設置状況結果は全国及び全道設置率よりも低い状況にある。警報器が果たす役割や奏功事例について各講習会・町内イベント・広報誌を活用して設置率向上に努めた。 「芽室消防団運営事業」→火災件数の抑制には住民の防火意識を根付かせ、発展させることが重要と考え、春・秋の火災予防運動や各種イベント会場における予防広報活動の推進、町内の幼稚園や保育所で組織している幼年消防クラブを通じて幼少期から防火防災教育の充実に取組み、町民一人一人が常に「火の用心」の心がけの意識を持ってもらうよう努めた。 「芽室消防施設整備事業」→近年多発している自然災害(地震・台風・爆弾低気圧等)対応に欠かすことのできない救助工作車及び積載している多機能を持ち合わせた救助資機材を計画的に更新し、更新された資機材を効果的に運用するために職員の技術向上を推進し、安全・迅速な救助対応の強化を行った。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A:実現した
 B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
 C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した
 D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない
 E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 とかち広域消防局消防部隊出動計画に基づき、茅室消防署から直近の災害現場へ出動しているが、特に救急出動では町外への出動に加え、救急出動の重複出動が増加している。また、帯広市内の専門病院へ傷病者を搬送する割合も高くなっているため、救急車2台体制維持の重要性が増している。</p> <p>《今後の予測》 出動件数の増加に加え、防火対象物立入検査の増加に対応する必要があるため、消防職員の増員について茅室町と協議し「茅室消防署職員定数計画」を策定した。今後は定数計画に基づいた職員採用を進める。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?	

5. 施策の成果向上のための具体的な取り組み(今後強化すべき取り組み、新たに実施すべき取り組み)

●住宅用火災警報器の設置率向上に向けた取組み(茅室消防署活動事業) 住宅用火災警報器の設置率向上に加え、設置から10年を経過した警報器交換を促進するための広報を強化する。新たに実施すべき取り組みとしては、茅室町全世帯の警報器設置及び交換に関する支援の手法について検討する。
●火災出動件数を減らす取組み(茅室消防署活動事業・茅室消防団運営事業) 毎年度ゴミ焼が原因の火災が発生しており、ゴミ焼から建物火災へ発展したケースもある。ゴミ焼は廃棄物処理法で規制されていることから茅室町役場及び警察署と現場対応を強化し、広報誌やホームページでゴミ焼の危険性・違法性を発信する。また、事業所や農業従事者に対する予防講習会開催について検討する。
●防火講習会・普通救命講習会参加者向上に向けた取組み(茅室消防署活動事業) 講習会参加者数増を目指すために、新たに設立された自主防災組織に講習会の開催に向けた働きかけを強化する他、自主防災組織未設置の町内会又は未実施の事業所等へ講習会参加に向けた取組みを行う。

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	成果指標は策定時より下がっているが、防火防災講習等、各種イベントや広報活動を継続して行っていることから、防災意識の醸成が図られていると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	警報器の交換について知らない町民も多いと思われることから、周知活動に工夫が必要である。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	様々な取り組みを継続して行っていることから、庁内評価と同じく策定時と比較して前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	・住宅用火災報知器を付けていない家庭を再度確認して、設置増加件数が分かると良い。	A:実現した B:(前期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(前期実施計画策定時と比較して)前進した D:(前期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(前期実施計画策定時と比較して)後退した					